

# HCC Best Practice



## 帝京大学医学部附属病院 外科学講座 肝胆膵グループにおける肝細胞癌治療の取り組み 外科医の技量と周術期管理の向上により 安全な手術の実施をめざす



### Interview

佐野 圭二 先生

帝京大学医学部附属病院 外科学講座 肝胆膵グループ 教授

帝京大学医学部附属病院 外科学講座 肝胆膵グループは、現在、佐野圭二先生を筆頭に、スタッフ全員が一丸となって難治癌といわれる肝・胆・膵の癌治療に力を入れている。肝細胞癌に関しては、同グループが診断から関与し、治療は内科、放射線科、腫瘍内科と連携しながら個々の患者にとって最適な治療法を提案する。それが外科治療であれば患者の納得を得たうえで、看護師や病棟薬剤師、管理栄養士など多職種連携による徹底した周術期管理のもと実施。「他院で手術不可と診断された例でも、安全に根治を望めると判断すれば積極的に手術を行う」と佐野先生は話す。そんな同グループでの肝細胞癌治療の取り組みについて佐野先生にお話を伺った。

### 帝京大学医学部附属病院 外科学講座 肝胆膵グループの概要

#### 1. 歴史

帝京大学医学部は同大学の開校より5年遅れで開設され、2016年に45周年を迎えた。当初、肝胆膵疾患に対する外科治療は第一外科が担当していたが、大講座制に移行してからは肝胆膵グループが担当している。

最初の肝胆膵グループの教授に就任したのは、第一外科の教授であった高田忠敬先生、その後2代目教授を浅野武秀先生が務めた。佐野圭二先生が3代目の教授として日本赤十字社医療センターより招かれたのは2010年の

ことだった。

初代教授の高田先生は胆道・膵臓疾患を専門とし、日本肝胆膵外科学会創設者として同学会の理事長も長く務められた。2代目教授の浅野先生は膵臓疾患を専門に、日本膵臓内視鏡外科研究会の初代代表世話人として膵臓癌の手術、特に腹腔鏡手術の確立に尽力された。こうした経緯から、佐野先生が教授に着任した当初、同病院では膵臓疾患に造詣の深い医師が多かったようだ。

「病院側としては肝臓、胆道、膵臓疾患それぞれをバランスよく診られるような診療体制をとりたかったのだろう」と、肝臓を専門とする佐野先生はご自身が招かれた理由をこう話す。また、同病院の内科にはウイルス肝